公民連携プラットフォーム・京都スタジアム（仮称）分科会（第1回）開催概要

場所：生涯学習施設・道の駅 ガレリアかめおか
日時：1 月 31 日（水）14:00～16：30
第 1 回テーマ：『京都スタジアムとスタジアムを取り巻く環境』

＜プログラム＞
■開会あいさつ

第 1 部
■京都スタジアム事業・施設の紹介
■地域未来投資促進法に基づく基本計画について
～亀岡地域のスポーツ・観光産業の成長について～
京都府文化スポーツ部　文化・スポーツ施設整備担当　理事　山本　敏広　氏

■京都スタジアムを核としたまちづくりについて
亀岡市まちづくり推進部　部長　竹村　功　氏

第 2 部
■パネルディスカッション
「京都スタジアム等の地域資源を活かした観光について」
パネリスト
亀岡市　市長　桂川　孝裕　氏
株式会社JTB西日本　団体旅行京都支店　営業担当課長　神田　泰志　氏
保津川遊船企業組合　代表理事　豊田　知八　氏
京都府文化スポーツ部　文化・スポーツ施設整備担当　理事　山本　敏広　氏
コーディネーター
PwC アドバイザリー合同会社　片山　竜

＜開催結果＞

平成 30 年 1 月 31 日にガレリアかめおか（京都府亀岡市）で、公民連携プラットフォーム・京都スタジアム（仮称）分科会（第1回）を開催いたしました。当日は、約 80 の民間企業・競技団体等の方が約 120 名、「亀岡駅周辺エリアにぎわいまちづくり推進会議」等の関係者が約 40 名、合計約 160 名の方が参加されました。

第 1 部のプレゼンテーションにおいては、はじめに、京都府文化スポーツ部文化・スポーツ施設整備担当理事の山本敏広氏より、京都スタジアム事業・施設について、スタジアムのイメージ動画の上映等もまじえて紹介を行いました。さらに、地域未来投資促進法の制度概要や国等による様々な支援措置、及び、昨年9月に国の同意を得た基本計画（京都府及び亀岡市が共同で作成）の概要について説明を行いました。

続いて、亀岡市まちづくり推進部部長竹村功氏から、「京都スタジアムを核としたまちづくりについて」と題しまして、京都スタジアムの周辺エリアで整備が進められている「保津川かわまちづくり計画」、「亀岡駅北区画整理事業」、「京都・亀岡保津川公園」の今後の整備の方向など、にぎわいづくりや新しいまちづくりについて説明を行いました。

第 2 部は「京都スタジアム等の地域資源を活かした観光について」をテーマとして、パネルディスカッションをおこないました。

まず、基調講演として、亀岡市市長桂川孝裕氏に、亀岡市の観光政策と、亀岡市の地域資源・観光資源を含めた亀岡市の魅力等についてご紹介いただき、これらの地域資源を活かすために京都スタジアムに期待すること等についてお話しいただきました。

また、保津川遊船企業組合代表理事豊田知八氏から保津川下り事業のご紹介や、国内外の観光業者へのセールスを通じて把握された、亀岡市域への観光客（インバウンド等を含む）のニーズや動向など、貴重な情報についてお話しをいただきました。

株式会社JTB西日本団体旅行京都支店営業担当課長の神田泰志氏からは、亀岡市の観光に関する魅力度についての全国平均との比較、認知度などの分析結果について情報提供をいただきました。

その後、①亀岡市の地域資源の魅力について、②亀岡市及び周辺における近時の観光等の実態について、③スタジアムと観光の連携について、④その他、観光以外でも活用すべき地域資源とスタジアムの連携の可能性について等のトピックについてパネルディスカッションを行いました。

（主な意見）

① 地域資源の魅力

- 亀岡の魅力は農産物、亀岡牛など食に関わるものと美しい自然である。これらの魅力的な地域資源をスタジアムとともに発信したい。（亀岡市：桂川市長）
- 亀岡の美しい風景や原風景を活かした、亀岡まるごとガーデン・ミュージアムプロジェクトを実施している。亀岡すべてを庭に見立てて、歴史ある街を美しく見せる取り組みである。アユモドキを活かしたテーマパークなど、亀岡の環境と自然をいかした心に残る景色を作り上げる取り組みを進めている。（亀岡市：桂川市長）
- 亀岡は、アウトドアスポーツ、保津川下り、ラフティング（20社以上が亀岡で営業）、カヌー、パラグライダーなど多くの自然を生かしたスポーツがなされている。亀岡まるごとスタジアム構想として、京都学園大学と連携した亀岡トレイルや、バレー協会と連携したビーチバレー場の整備について検討中である。（亀岡市：桂川市長）
- 亀岡は霧で有名であるが、3 月に霧のテラスをオープンする予定。霧のデメリットをメリットに変えていく方策をたてている。（亀岡市：桂川市長）
- 京都を代表する和牛である亀岡牛のブランド化を進めているところであるが、現状では亀岡牛が常時食べられるレストランは限られている。亀岡市食肉センターと亀岡料飲連合会の連携を促すことにより、亀岡市内での亀岡牛の流通強化を進めているところである。また、亀岡は京野菜の主要な産地であり、地元の農協（たわわ朝霧）等での売上が大変好調である。（亀岡市：桂川市長）
- 観光客にとっては、亀岡は嵯峨野トロッコ列車・保津川下りが有名であるが、現状では日帰りのお客様が多く、京野菜、亀岡牛等の他の地域資源については、いまだ充分に認知されていない状況のようである。（JTB 西日本：神田課長）

② 亀岡市及び周辺における近時の観光等の実態

- 保津川下りには、ここ数年はアジアを中心とした海外からの観光客も増えてきている。しかしながら、亀岡地域では大勢の観光客が入れる大型レストランがないため、観光客の多くは午前中に川下りをして、午後には嵐山・京都へ行ってしまう傾向にある。（保津川遊船企業組合：豊田代表理事）
- 年間約150万人ものトロッコ列車の利用客をどのように亀岡市内に引き込むかという点について、市も対策をうっているところである。具体的には、京馬車やレンタサイクルの利便性向上等や、肉フェスタや桜祭り等の新たなイベントの取組も進め、多くの方に訪問いただく工夫をしている。（亀岡市：桂川市長）

③ スタジアムと観光の連携

- 観光バスで保津川下り訪れる観光客に対して、スタジアムに併設するレストランにて、亀岡牛や京野菜を用いた食事を提供することも考えられる。（保津川遊船企業組

合：豊田代表理事）

- 旅行会社としては、しっかりとした宿泊地があることが、ツアー造成の前提となる。亀岡は湯の花温泉はあるが、いまだホテルが不足している状況であり、スタジアムにホテルを併設されることで、外国人もはじめとした観光客への魅力が増すと考えられる。（JTB 西日本：神田課長）
- サッカーの試合において、アウェイの観客の約3割は宿泊するとのデータもあり、そういった意味でもスタジアムに隣接するホテルのニーズは高く、アウェイ観戦にきた観客が周辺の観光も行うことも考えられる。（PwC：片山）
- 亀岡駅北地区の区画整理事業でのホテル誘致が進められており、亀岡市としても支援に取り組んでいるところである。（亀岡市：桂川市長）
- 京野菜や亀岡牛については、今後も地産地消を広めていきたいと考えており、スタジアムのコンコースやレストランを活用した連携もありうるのではないかと考えている。（亀岡市：桂川市長）

④ その他、観光以外でも活用すべき地域資源とスタジアムの連携の可能性

- 子供向けのクライミングウォールも整備されるとのことで、周辺に新たに整備する公園も活用しながら、親子での利用を促進する工夫をしていく必要があるのではないかと考えている。（亀岡市：桂川市長）
- クライミングウォールは天候の影響をうけずに利用できる室内施設として同規模のものは、日本初である。競技団体とも連携して国際大会の誘致を行うとともに、初心者向けの講習の開催等も通じて、競技者の裾野を広げていく形にできればよいと思う。（京都府：山本理事）
- フィールドの天然芝については、京都サンガ FC に委託し、亀岡市の気候に適した芝の育成・管理方法の実証実験を行っている。こうした実験の成果を活かし、適切に維持管理することで、子供たちが日常でも使えるような芝生グラウンドとしていく。（京都府：山本理事）

- 例えば明治国際医療大学などの、周辺大学との連携も考えられる。サッカー選手のリハビリを通じて学んでいただくことも考えられるし、国立健康・栄養研究所と京都学園大学が提携して、スポーツと健康、健康長寿をテーマとした調査も始まっており、その中でスタジアムの利用を考えていきたいと考えている。（亀岡市：桂川市長）
- 健康をキーワードとしたスタジアムの活用としては、鹿島アントラーズが指定管理者として運営している鹿島スタジアムにおいては、敷地内で鹿島アントラーズスポーツクリニックとサッカー選手向けのトレーニングメニューも利用できるジムが運営されている。このように、球団が保有しているノウハウの一部を他事業で活用している事例もあり、一つの機能としてとり入れることも考えられる。（京都府：山本理事）

- 亀岡駅の北側の公有地も含め、スポーツ、健康、観光をキーワードにした、様々なアクティビティの核となるような拠点となればと考えている。民間企業と連携して、企業の取り組みを応援していく形と考えている。（亀岡市：桂川市長）
- スタジアムも含めたまちの機能を進化させていくということを考えると、ICT 技術を利用したサービス提供は不可欠と考えられる。そのプラットフォームを使って、亀岡エリアでの地域データ収集及びそれらを活用した様々な地域、観光へのサービスやビジネス展開も可能と考えている。ICT 化で得られたデータを使って新たなビジネスの創出を民間企業に行っていただけば、更なる亀岡市域の発展につながるのではないかと思う。（京都府：山本理事）

終了後の参加者へのアンケートにおいては、参加者からは、「京都スタジアムを新たな亀岡の観光資源として、活用していきたい」「京都スタジアムの利用について、サッカー以外にも様々な可能性があると認識できた」などの感想をいただきました。

＜会場写真＞

© 2018 PwC Advisory LLC. All rights reserved. PwC refers to the PwC network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.Please see http://www.pwc.com/structure for further details.